

ティーボールは、野球やソフトボールに極めて類似したゲームです。野球やソフトボールと大きく異なるところは、本塁プレートの後方に置いたバッティングティーにボールを乗せ、その止まったボールを打者が打つところです。したがって、投手はいません。

1 競技方法とルール

- (1) 競技者の数 試合は、1チーム10人（両チームの選手は同数）
- (2) 競技者の名称と守備位置
守備は10名です。他の選手はエキストラヒッター（打つだけの選手）
内野手 ①本塁手（ホームベースマン）
②一塁手（ファーストベースマン）
③二塁手（セカンドベースマン）
④三塁手（サードベースマン）
⑤第一遊撃手（ファーストショートストップ）
⑥第二遊撃手（セカンドショートストップ）
外野手 ⑦左翼手（レフトフィルダー）
⑧左中翼手（レフトセンターフィルダー）
⑨右中翼手（ライトセンターフィルダー）
⑩右翼手（ライトフィルダー）
- (3) 競技場規定
①塁間は16mとする。センターを40mとするグラウンドをとる。
②バッティングティーは、本塁ベースの後方50cm以上1m以内の間に置く。
- (4) 試合
①2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の10人の打者が打撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数（イニング）を終えたときに得点の多いチームが勝者となる。
（時間制限を設ける場合あり）
②残塁の走者は次の回に引き継ぐ。
③攻守の決定は、試合前に行われるジャンケンによる。
④球審によって「プレイボール」が宣告されると試合は開始される。
⑤フェアボールとファウルボールは、野球やソフトボールと同じであるがバッターズサークルフェア地域内、ライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったときはフェアボールとする。
⑥インフィールドフライのルールは適用しない。
⑦登録された選手は、1試合につき最低1イニング以上プレーするか1度は打席に立たなければならない。（15名登録であれば、15名全員が試合に出る）
- (5) 得点
走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。
- (6) 審判員
①審判員は2人制で行う。2人は球審と塁審（1塁）に分かれる。
②球審は、打者の正面横に立つ。
③塁審は、1塁手の後方1塁ファウルライン上に立つ。
④球審は、3塁と本塁周辺のプレーをジャッジする。
⑤塁審は、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
⑥球審と塁審は、打者走者の進塁が一段落しボールが内野手か本塁手にもどったら「タイム」をかけ、次のプレーに移るように指示する。

- (7) 本塁手規定
本塁手は打者が打撃を完了するまでは、バッターズサークルの外にいないなければならない。
- (8) 打者規定
- ①打者は審判がプレイを宣告した後、バッティングティーに載せたボールを打つ。
 - ②打撃時の軸足移動は一步までとする。2歩以上動かした場合には、ワンストライクが加えられる。
ツーストライク後にこの行為を行った場合には打者は三振となる。
 - ③打者がボールを打たないで、ティーを打ったときは、ワンストライクが加えられる。
ツーストライク後にこの行為を行った場合には打者は三振となる。
 - ④ツーストライク後からのファールは打者アウトとなる。
 - ⑤バントやプッシュバントを行った打者はアウトとなる。
- (9) 走塁規定
- ①走者は打者が打った後、離塁することができる。走者の離塁が早いときは、走者は、離塁アウトになる。
 - ②盗塁、スライディングした走者はアウトになる。
 - ③1塁、2塁、3塁での駆け抜けは認められる。(走者は、ベースを駆け抜けた後、進塁の意思がなければ野手にタッチされてもアウトにならない。

